かんたんおもちゃとカンボジアの子どもたち(3)

島田祥生

一昨年、昨年に続き、2月8日からの9日間、「カンボジア スタディーツアー」に参加してきました。 内戦収束後も、政府の復興の手がいきわたらない、タイ国境に近い貧困地区の支援活動を行っている組織を、 日本から支援しているグループ「かんぼれん:カンボジアの友と連携する会」が、毎年実情把握のため出向い ている活動です。参加9名の、賑やかなツアーになりました。

前々回、前回の報告書と合わせると、よりご理解いただけるかと思います。

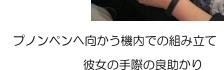
https://tankenkobo.com/wp/2018/11/07/cambodia/

https://tankenkobo.com/wp/2019/02/07/cambodia2/

前回までで、かんたんおもちゃが、子どもたちだけではなく、大人の方たちとの距離も ぐっと縮める「魔力」があることが分かりました。

今回は、さらに一歩踏み込んだ目標を持ちました。

- 動かすのに、より工夫してもらいたい。
- ・組み立ての楽しさも味わってもらいたい。
- よりスキンシップがしたい。



※ プノンペンの「障がいのある子どもの家」 一彼らの感性・感覚は凄いー

ここでは、視覚、聴覚など身体に障害があり、貧しさゆえに親から見捨てられたり した子どもたち30人ほどが共同生活をしています。感謝と互助の気持ちをしっかり 持ったすがすがしい子どもたちです。

子どもたちから「カンボジアの時代による衣装の変遷」というファッションショーで 歓迎を受けました。メンバーで当地の愛唱歌「アラッピーヤ」を歌って返礼。

子どもたちも皆、楽しそうに、一緒に歌って、踊ってくれました。

かんたんおもちゃは、メンバーが用意した「とんでくカエル」、部品で用意した 「厚紙のコマ」、点字を付けた「自在ブロックパズル」。

- ・とんでくカエルは、折り紙でできていて、おしりを押すとはじけて飛んでいく、 微妙な力加減が必要な代物。皆、すぐにコツを覚えて大騒ぎでした。
- 厚紙のコマは、テーブルごとに、参加メンバーが組み立て方を教え、すぐ回る ように。自分で組み立てて嬉しそうでした。メンバーとのコミュニケーション「アラッピーヤ」を一緒に ツールにもなったようです。視覚に難のある子も、一度触らせると、 自分で回して楽しんでいました。
- ・自在ブロックパズルは、色に合わせて1~6の点字を付けました。 一度触らせると、すぐ自力で色を揃えていました。すごい感覚です。





想定外の作品! 自在ブロックパズルを点字を頼りに





子どもの家の構内





かんたんおもちゃでコニュニケーション

※ ゴミ捨て場跡地の保育所完成

現地で14年間、住民の人々とのつながり、子どもたちや お母さんの自立、教育に取り組んでこられた、浅野美幸さんが 拵えた保育所が出来上がりました。

昨年までの屋根だけの教室に比べるべくもない、立派な建物です。

教室が年齢別に4~5. クメール語を学んでいる部屋もありました。

「糸釣りかざぐるま」「厚紙のコマ」「ストロートンボ」などをプレゼント 時間が限られていたので、何種類かの組み立てキットを託しました。

後日、浅野さんからメールが届きました。

『さて、いただいた手作りの玩具ですが、子どもたちに作ってもらいました その時の写真を添付いたしました。

子どもたちの喜ぶ姿を見せられないのがとても残念です。

とっても喜んでいましたよ。どうか皆さまにも宜しくお伝えください。











浅野さんからの写

礼儀正しい子どもたちに圧倒され ストロートンボをプレゼント 住民のク

新築なった保育所

※ JSC の責任者ガビー神父との会食

(JSC:イエズス サービス カンボジア:内戦終結後支援を続けている) 「かんぽれん」が支援しているのは、JSC のブランチの「シソポン事務所」 本部の責任者およびスタッフと、ものすごく広く深い、そして楽しい会話が ありました。左が、責任者のガビー神父、真中は、障がい者を社会復帰させる 事業の責任者、右は、新任のスタッフ。

今回は、「自在ブロックパズル」を。楽しい会話が途切れなかったのは、流石です ガビー神父から、「私のデスクに、くるくるリングとフラッターリングが立てて あります。時々楽しんでいます。」とのコメント。厳しい活動の、一時の息抜きに なっているかと思うと、ものすごく嬉しくなりした。



ガビー神父らとの会食 傍らにブロックパズルを

※ 支援の現地、「シソポン」へ

11日の夕方、今回の主目的地である、カンボジア北西部の最貧困地区にある、 JSC のシソポン事務所に到着。遅い時間でしたが、車椅子を支援している家族の もとに。ご本人が、なかなか出てこない。しばらくして現れた彼女は・・・。



オメカシに時間を貰ったとのこと。

来てくれたことが嬉しかったようで、満面の笑み。 事務所の所長から、ストロートンボを本人にも プレゼント。JSC スタッフとの、いい

リレーションシップが出来上がっているようだ。 JSC のシソポン事務所





※ 通学用の自転車を支援している小学校・中学校へ

Toul Prasant School 訪問。児童数が180名 とのことで、用意がなく、全員へのプレゼントを 諦める。先生方にフラッターリングを、自転車提供





の成績優秀な子等にはくるくるリングを、ツアーの 先生はおもちゃを手に 教頭先生は興味津々 訪問した小学校

メンバーの娘から渡してもらう。彼女は、児童たちと何やら話している。 クメール語で?

先生方はおもちゃを、早速児童の手元に。みんなで楽しんでもらえそうで、 ほっとしました。教頭先生は、フラッターリングに興味津々でした。



くるくるリングを手渡す

KODAMA School

December 201

Toulpongo Secondary School

ここの校舎は、日本からの援助で出来たものとのこと。 ここも、十分な用意がなく、先生方にフラッターリングを、 自転車の生徒にはくるくるリングをプレゼント。

加えて、「科学の心をくすぐってほしい」と思い、合わせ鏡と 単品の鏡を2枚提供。組み合わせ鏡の不思議さをみんなで 体験してほしい。

先生は、早速、フラッターリングを生徒に渡していた。みんなでシェアする心根が嬉しかった。 在校生みんなにプレゼントしたかったが・・・。 次回は、生徒みんなに、組み立ての楽しさを 味わってもらいたいなと思った。





自転車の提供を受けた生徒達

木陰で、先生と生徒が

※ 悪路を1時間 Bossthom 村へ

シソポンからの国道をそれ、悪路を1時間、長い間いろいろな支援を続けている Bossthom 村に着いた。

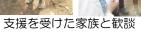
家の提供、家の修理、SRI(稲集約栽培法)の普及活動、児童への自転車提供、などなど、村全体と相談のうえ、支援内容、支援先を決めているとのこと。 支援先の家族は皆、事務所スタッフと打ち解けていて明るい。硬い信頼感で 結ばれていると見て取れた。

サプライズがあった。かんぼれんが、この Bossthom 村から感謝状を受けた。 右の写真は、村長さんから感謝状を受け取る、リーダーのボネット神父。 SRI で採れたご飯の昼食をご馳走になった。甘くいい香りが口の中に広がった。 さて、この村での、かんたんおもちゃの出番は? 集まっては来るが退屈

そうな子どもたち。ストロートンボや、はばたくインコを渡すと、眼を輝かせて

遊びだした。大人たちは、ますます話に身が入ったようで、いい時間が持てたようだ。間接的に、コミュニケーションのお手伝いができたかなと思う。







子どもたちが集まってくる



メンバーの娘が事務所の車に



村長さんから感謝状を受けとる



支援家族、近くの子ども達と

※ Bossthom 村の小学校へ

村人総出で建てた校舎が、大雨の洪水で使えなくなり、ようやく出来 上がった新校舎。児童数は350人ほどだが、先生が足りず2部授業。 この小学校の校長先生は、農業改革のリーダーを引き受けるなど、 村中から尊敬されている、腰の低い方。 3回続けての訪問が実現した。

今回は、ブンブンゴマを全員に。スタッフが教えるまでもなく、 あっという間に回していた。目がとてもきれいなのが印象的だった。 校長先生に、件の鏡セットと、かんたんおもちゃ組み立てキット3種類 計350人分を委ねる。組み立ての現場に居たかったが、今回は難し かった。次回、何とか実現させてほしいと勝手な願望が芽生えた。 教頭先生が、早速鏡2枚で「実験」をしていた。前回も、フラッター リングに、子ども以上に目を輝かせていた方。カガクの芽を育ててくれ そうな気がする。



校長先生を囲んで事務所スタッフと



緑に囲まれたいい環境 新校舎



スタッフよりうまく回す子も



みんな楽しそうでよかった

※ Pongro 村へ

校長先生に組み立て指導を願いする

JSC シソボン事務所の顧問を務めている、シソポン教会のグレッグ神父が 支援している村に行く。

そこには、神父が立てた Community Learning House があり、子ども たちが集まってくる。先生は、フィリッピンからのシスターだが、1か月 ほど休暇。16歳の男の子が代わりを務めていた。

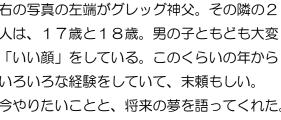
子どもたちは午後からとのことで、コマの組み立てキットを託す。

前回は、はばたくインコにデコしてもらったが、組み立てを見たかった。



Community Learning House

右の写真の左端がグレッグ神父。その隣の2 人は、17歳と18歳。男の子ともども大変 「いい顔」をしている。このくらいの年から いろいろな経験をしていて、末頼もしい。 今やりたいことと、将来の夢を語ってくれた。





10代の若者たちと歓談





お別れの会食でも弄っている

※ シソポン事務所のスタッフとお別れ

シソポンの4日間が、あっという間に過ぎ、 スタッフとのフェアウェルパーティー。 スタッフには、「自在ブロックパズル」を、 事務所の活動の tool として、何種類かの かんたんおもちゃキットをプレゼントした。

鳥取県ほどの広さを5名でカバーしていることに敬意を表したい。

※ シエムレアプの JSC 事務所へ

シエムレアプ事務所の責任者スレイモンさん達から、

ここでのプロジェクトの説明を受ける。

シソポンと同じような支援もしているが、当地ならではの課題も。

スレイモンさんのお孫さん9人に「くるくるリング」を、事務所の

スタッフに「カリカリトンボ」をプレゼント。

小さな子がいたので、

くるくるリングを。

最初は戸惑っていたが、

すぐ回せるようになった。



クルクルンぐで遊ぶ

ここの宿泊施設にお世話になり、翌日夜半、帰国の途についた。





JSC シエムレアプ事務所のメンバーと

※ 今回の纏めです

- 一かんたんおもちゃは、またまた想像を超えたもの-今回の目標だった、
 - 動かすのに、より工夫してもらいたい。
 - 組み立ての楽しさも味わってもらいたい。
 - よりスキンシップがしたい。

は、私が考えるまでもなく、当地の子どもたちのみならず、大人まで実現してくれました。 特に、子どもたちの好奇心、感性、感覚には、感服し、それに接することができ、大変楽し時を 過ごせました。

同行のメンバーや、シソポン事務所のスタッフのみなさんのお蔭と、感謝しています。

※ 次回の宿題です

- 一ますますやりたいことが広がっています―
 - 今までのアイテムをさらに充実させたい。
 - ・組み立てキットの種類を増やしたい。
 - 鏡セットに続く「実験機材」を持って行きたい。

今回は、ホテル工房での「強制労働」がないよう、部品の持ち込み形態を工夫しました。 ホテルでの組み立てが、ちょっと時間切れになり、キットで提供せざるを得ないこともありましたが、 それが喜ばれるなど、嬉しい誤算もありました。用意したものが殆どはけて、ほっとしています。